

診療所実習を終えて

あかりこどもクリニック 3年 KS

私はこの度 7/24 にあかりこどもクリニックにて診療所実習を行なった。私が幼い頃に小児科へ行った記憶がなく、小児科での実習は新鮮な気持ちで臨むことができた。これからは診療所実習で得た経験や学んだことについて3つほど述べていこうと思う。

1つ目は、院内の環境作りである。院内にはあかりこどもクリニックのキャラクターである「ポワンちゃん」を院内の至る所に配置し、子供はくるくると回る物が好きな傾向があるため天井にはシーリングファンを取り付けるなどして子供が飽きない環境が整っていた。また子供の親への配慮として、駐車場の1台の幅を広くすることによって子供を車へと乗せる際の隣の車にドアをぶつけてしまうことへのリスクやストレスの軽減に繋がっていることを学んだ。さらに、処置室と隔離室の間に事務室を設けることで院長が処置室から隔離室に移動する際でもスタッフとのコミュニケーションが密にとれるような院内の構造になっていた。そのような作りをしている理由として院長は「医療ミスを起こさないためには誰かがそのミスに気づくことが大切であり、そのミスを素早く周囲に伝えることができる環境作りが必要である」と仰っており、まさにその言葉が院内の構造が物語っていると感じた。そして驚いたのがスタッフに積極的に休暇を取得することを促し、「休まないことが偉いことではない」と仰っていたのがとても印象的であり、また北原先生も子供の剣道の大会で休診日を設けるなどして自身の QOL を保ちながら診療にあたっている印象を受けた。つまり、診療の根本は第一に患者が快適に過ごせる環境作りであり、そのためには院長とスタッフとの関係性やコミュニケーションを密に取れる環境が大切になると考えた。そうすることで医療ミスが起こりにくいより良い医療を提供することが可能になるのだと考えた。

2つ目は、予防接種見学である。まず、あかりこどもクリニックで特徴的なのは予防接種専用の待合室を設けているところである。それに関しての院長の説明はされなかったが恐らく予防接種を受けに来る子供は健康なことが多いため、他の風邪や発熱で来院している子供からの感染を防いでいるのではないかと考えた。次に、予防接種を受ける子供が受診する前にスタッフが注射の準備を行なっていた。そこでは、日本の定期・任意予防接種スケジュールを確認しながら作業しており、接種する年齢によって注入する薬液の量が異なるものもあるため、受付事務スタッフ、予防接種準備スタッフ、北原院長のトリプルチェックを行なうことで念入りに確認して予防接種を行なっていた。そのことも上記で述べた医療ミスをなくすための工夫であると考えられた。また、1週間前までに発熱を起こすと予防接種は受けられず、電話では保護者に次回接種可能な予防接種名も伝えるようにしているとスタッフの方が仰っていた。そのことから、予防接種をするにしても小児科では子供と保護者のフォローが大切になると考えた。

3つ目は診療についてである。北原先生が「9割は問診で決まる」と仰っていたように

先生は子供と保護者の目を見て1人1人丁寧に問診しており、問診を重要視していた。ここからは印象に残った患者2人についての診療について掘り下げていこうと思う。

1人目は3日前から発熱、咽頭痛を主訴に来院し、溶連菌感染の疑いのある子供であった。微生物学の講義で「溶連菌」は学習したことがなかったため、調べたところ、溶連菌とはA群β溶血性連鎖球菌（化膿連鎖球菌）のことであった。参考書で調べたところ、5歳から10歳の子供に最も一般的な起因菌であり、有症状と無症状がある。有症状では咽頭痛、発熱、吐き気などが現れる。咽頭所見は軽度発赤、または黄灰色の分泌を伴う真紅色を呈するとのことであった。検査方法について見学する機会があり、インフルエンザやコロナウイルスと同様にイムノクロマト法を用いたPOCT(Point of care testing)によって迅速診断を行っていた。検査結果は陰性であったが数分で結果がでることに改めて驚いたと同時に迅速診断キットの診療での有効性が確認できた。

2人目は、点滴を受けた3歳位の子供であった。高熱が続き水分摂取がなかなかできないということであった。私は点滴を初めて見学したが、小児では手背の静脈を用いて点滴を行っていた。点滴に用いる静脈については勉強不足だったので調べたところ、点滴で用いる血管は主に3種類あり、肘正中皮静脈、尺側皮静脈、橈側皮静脈であることを学んだ。実習では主に子供の手背の静脈から点滴を行っていたため、恐らく尺側皮静脈からの点滴を行っていたことが考えられた。しかし、小児の静脈は目視しにくく大人の患者の点滴に比べ困難なことが感じられた。北原先生によると「点滴は経験が大切」であるとも仰っていたのでこれからの病院実習などの機会を利用しながら座学での医学の知識だけではなく、点滴や採血をはじめとする医療技術も身に着けたいと感じた。

最後になるが、今回の実習を通して座学の勉強の知識と医療技術を習得しなければ臨床の現場で十分に活躍することができないことを感じた。それを踏まえて今後の勉学に励んでいきたいと思う。

【謝辞】

私はこの度あかりこどもクリニックでの実習を通じて、多くの貴重な経験と知識を得ることができました。ご指導いただいた先生方、スタッフの皆様に深く感謝申し上げます。

【参考文献】

静脈注射でどの血管を選ぶべき？判例から解説

<https://www.kango-roo.com/learning/5103/> (8/19 閲覧)

シンプル微生物学